

「公共放送の在り方に関する検討分科会」（第7回）

資料7-1-2

NHK 経営計画（2021-2023年度）（案）

補足説明資料

日本放送協会

2020年8月26日

NHK

三位一体改革推進に向け、取り組みが期待される事項

	主な指摘内容	検討の方向性
業務	<ul style="list-style-type: none"> 客観的かつ具体的な経営上の指標を設定し、評価を踏まえたPDCAサイクルを確立 事業規模を適正な水準に管理する予算編成を 地上波・衛星波それぞれの必要性や役割を明らかに 地域の活性化に寄与する取り組みの具体化 インターネット活用業務の役割及び費用について明確化 	<ul style="list-style-type: none"> 客観的なデータに基づき、継続的に修正・改善を行い、目標達成を目指す仕組みを作る 構造改革を進め、支出を削減しコントロール 衛星波や音声波の在り方を検討 全国ネットワークを活かし、地域の発展に貢献し、地域発信を強化 “NHKらしさ”を発揮する手段としてインターネットを適切に活用。費用は抑制的に管理
受信料	<ul style="list-style-type: none"> 公平負担の徹底に向けた課題を検証 衛星付加受信料の在り方について対策を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 公平負担の徹底と営業経費の抑制を図る手法を検討 放送と通信の融合時代に適合した受信料制度の在り方に関する研究を推進
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> グループ全体の役割分担をゼロベースで見直し、グループ経営改革に向けた取り組みを具体化 	<ul style="list-style-type: none"> 関連団体の役割を純化し、“量から質へ”を目指し、合理的に生産性を向上させる

※上記以外の指摘事項についても、今後の具体化検討作業のなかで検討を進めていく。

“波”管理から“ジャンル管理”へ

- これまでの放送番組の編成は、放送波ごとに編集長を置き、個別番組の採択、予算管理を行い、それぞれの波のブランドで視聴者に訴求してきた。
- インターネットの普及、ネット上の配信事業者の増加に伴い、視聴者は個別のコンテンツを選ぶ時代に。

これまでは
チャンネルごとに番組を
採択/編成し予算を管理



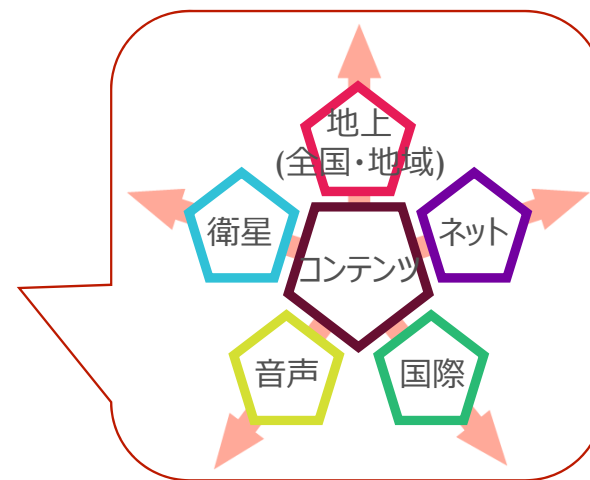
視聴者

ジャンル軸で見直しを図り、
個々のコンテンツ力で
勝負できる状態へ



視聴者

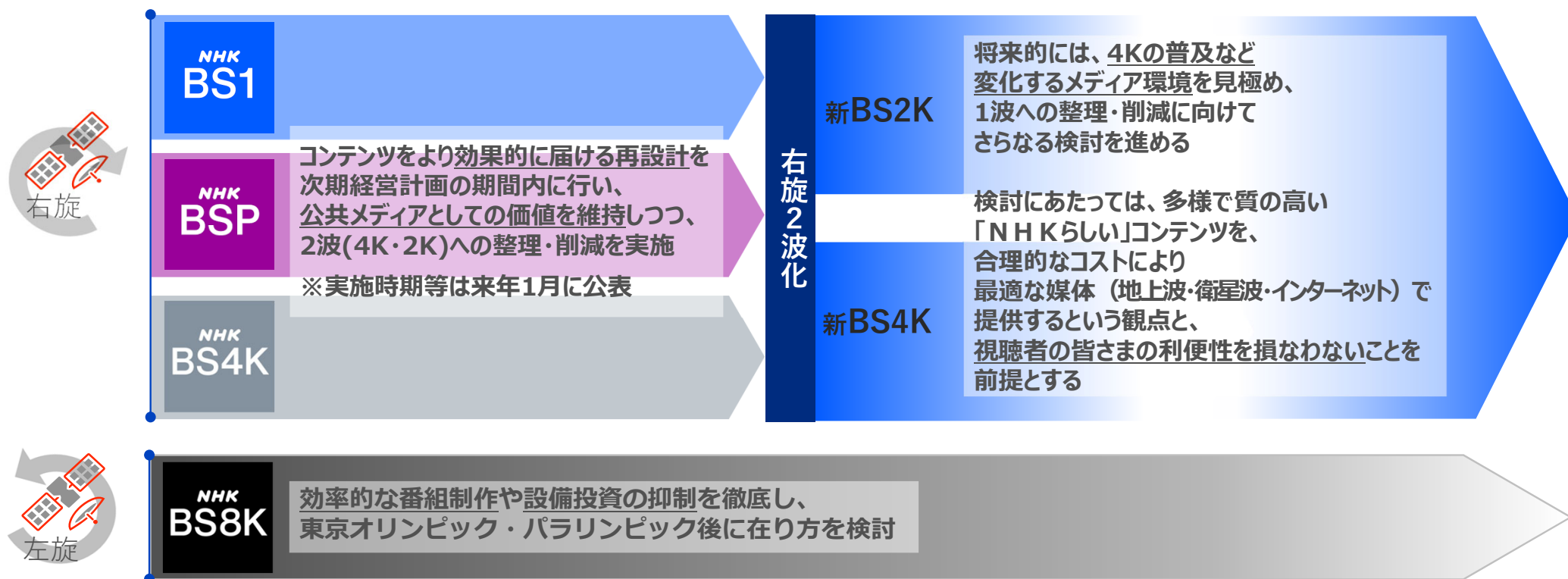
コンテンツ単位の的確な
マーケティングにより、
効果的な編成・展開を図る



「ジャンル」で管理することによって、適正な生産量を維持しながら、合理的なコストで、より「NHKらしい」質の高いコンテンツやサービスの提供を目指す。

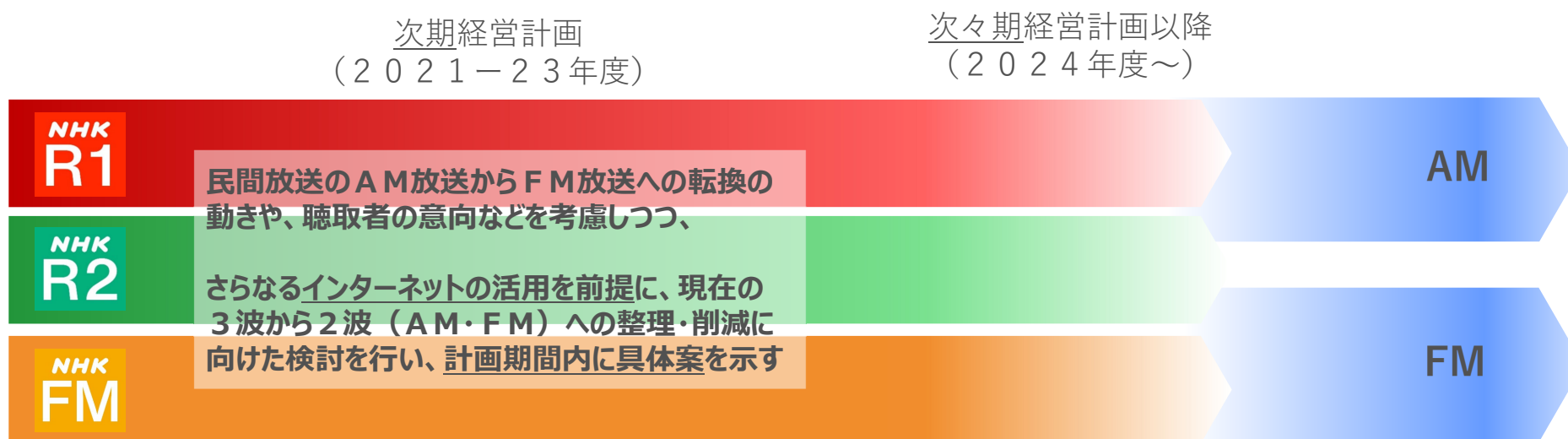
保有するメディアの在り方について①（衛星波）

◎衛星波の整理・削減を段階的に実施し、将来的には右旋の1波化に向けて検討を進めます。



保有するメディアの在り方について②（音声波）

◎音声波は、2波（AM・FM）への整理・削減に向けた検討を進めます。



(参考) 2020年6月「放送事業の基盤強化に関する取りまとめ」AMラジオ放送の在り方

